

令和8年度 学校経営計画書

学校番号	43	学校名	静岡県立焼津中央高等学校	校長名	遠山 一郎
------	----	-----	--------------	-----	-------

【教育目標】

真理を探究し、高雅な教養と豊かな心情を育て、人格の調和を図るとともに、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた真に社会に貢献し得る、心身ともにたくましく健康な人材を育成する。

1 スクール・ミッション

高い目標を掲げて進路実現を目指す地域の中心的高等学校として、校是「文武両道」の下、生徒の主体的な学びや学力伸長を支援する授業、「行きたい学校づくり」推進事業（次世代教員養成システム構築）による取組、工夫を凝らし体系化された進路指導などを通して、揺るぎない自己を確立し、社会や地域に主体的に参画・貢献する「たくましく・たしかで・ゆたかな」人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

1 グラデュエーション・ポリシー

- ① 自主的精神に満ち、社会の発展に参画・貢献し得る、たくましい心身の育成。
探究力・創造力・実践力・発信力
- ② 真理を探究し、高雅な教養の基盤となる、たしかな知性の育成。
知識、技能の体系的理解・読解力・探究基礎力
- ③ 人格の調和的発達を図り、自分と他者を尊重する、ゆたかな心の育成。
協働性・主体性・公共心・自己肯定感・レジリエンス

2 カリキュラム・ポリシー

- ① 生徒一人ひとりの高い進路目標の実現に応えるよう教育課程を編成。
- ② 探究活動で身に付けた教科横断的な力を教科でも生かし、主体的な学びを推進。
- ③ 学校行事・部活動・各種事業を充実し、主体的に参加できる体制を整備。

3 アドミッション・ポリシー

- ① 主体的に学ぶ姿勢をもち、高い目標に向かって最後まで頑張りぬく生徒。
- ② 学習面とともに、学校行事や部活動など多くの活動に挑戦する生徒。
- ③ 自分と他者を尊重し、協働し、切磋琢磨しながら高め合うことができる生徒。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 授業の質の向上とICTの有効活用を促進し、学力の確実な定着と各教科で育成を目指す思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- イ 自律的な基本的生活習慣を確立し、心身の調和の取れた生徒を育成する。
- ウ 探究活動、学校行事、部活動、各種セミナー等への参加により主体的な生徒を育成する。
- エ P D C Aサイクルを基にした計画的で組織的な進路指導(スパイラルアッププログラム)を推進し、進学対応力と意識・意欲・能力の向上、進路希望の実現を図る。
- オ 読書環境の整備により、読書習慣の定着と語彙力・表現力の育成を図る。
- カ 授業や学校行事を通して、主権者教育及び消費者教育に主体的に取り組む生徒を育成する。
- キ 地域との交流や広報活動を充実させ、保護者や地域から信頼される学校づくりに努める。
- ク 教職員のコンプライアンス・危機管理に関する意識・資質の向上と、働き方改革の推進を図る。
- ケ 生徒、教職員が教育活動に専念できるような環境を整備する。

3 本年度の取組

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	<p>・学習評価の充実および授業時数の確保を図り、授業改善に向けた教育課程の適切な運用と校内体制の整備を推進する。各教科で育成を目指す資質・能力を育み、生徒の進路実現を支える学習基盤の充実を目指す。</p> <p>・基礎学力の確実な定着を図るとともに、進路実現を可能とする学力を育成する。</p>	<p>○学習評価の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業における育成すべき資質・能力を明確化し、学習評価や授業改善を行う。 評価規準・評価方法の教科内共有の推進 指導と評価の一体化に向けた年間指導計画の見直し 評価結果の分析と授業改善へのフィードバックの実施 <p>○授業時数の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づく進捗管理の徹底 行事の精選および日課調整による授業時間の確保 定期テストごとの欠課状況把握と、適切な管理 <p>○教育課程・校内体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成・見直しの実施 教科・分掌間の連携強化（情報共有の場の設定） 授業改善を支える校内体制の整備 <p>・年間を通じ、生徒の実態に合わせた、課題の提示と小テストの実施。</p> <p>・テスト後の追指導。</p> <p>・スタディレコード等への記録と把握。</p> <p>・「学びの基礎診断」等を活用した分析を年3回以上実施し、生徒の学力を把握し、指導の検証・改善に結び付ける。</p> <p>・1人1台端末やICTの効果的、日常的な活用に加えAIの活用及びAI活用の研修の促進を図る。</p> <p>・各教科で育成を目指す資</p>	<p>○学習評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員アンケート「評価の共有・理解」〈80%以上（肯定的回答）〉 評価を授業改善に活用している教員 〈80%以上〉 <p>○授業時数</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠課状況の把握を徹底し確認漏れのない運用を実現する〈確認漏れ0件〉 教科による科目別進捗確認を年3回実施 〈100%〉 <p>○組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報共有機会（教科・分掌）〈学期1回以上〉 <p>・基礎学力が定着する。</p> <p>・学習支援サービスの有効活用により、生徒が自身の学習状況の振り返りと改善ができ、教員は指導に生かす。</p> <p>・学びの基礎診断、模擬試験等の結果の共有と分析を生かし、年間4回の面談実施により具体的指導が徹底される。</p> <p>・授業で1人1台端末の活用を研究した教員 100%、実践した教員 80%。1人1台端末を日常的に活用したと答える生徒 80%。</p>	<p>教務 進路 情報 研修 各学年 各教科</p>

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		質・能力と単元シラバスの研究。	・AIの活用について研修し、授業改善に繋がると回答する職員が70%。	
イ	<ul style="list-style-type: none"> 校則及び社会規範を遵守する意識を育てる。 基本的な生活習慣の確立と心身の健康管理を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員による校内外の挨拶運動、時差登校支援、交通指導、声掛けを継続。 校外交通指導（年5回）。 交通安全教室の実施。 学校連絡ツール、全校集会を通じて交通マナー向上、ヘルメット着用率向上を図る。 全職員による日常的な制服の着こなし支援の継続。 	<ul style="list-style-type: none"> 場に応じた挨拶と対話ができる生徒100%。 不注意遅刻者が年間20人以内、交通事故10件以内。 一時不停止・並進違反が20件以内。 服装の乱れ等で再指導を受ける生徒0%。 	生徒
		<ul style="list-style-type: none"> 各健診の事後措置を徹底。 既往症のある生徒の状況を全職員に説明。 	<ul style="list-style-type: none"> 心臓病、貧血等の健康診断有所見者受診率100%。 緊急時には職員がマニュアルにより適切な対応ができる。 	保健
		<ul style="list-style-type: none"> 年間2回以上の担任面談を実施。 気になる生徒の状況を定期的に聞き取り、全職員に周知。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な助言により、生徒との信頼関係が深まる。 組織による対応が可能となり、該当生徒及び担任等への支援が充実する。 	教育相談
ウ	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒が生徒会活動に参画し活性化する。 学校行事や部活動により、主体性を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の行事運営、委員会活動の促進。 部活動への主体的な参加。 地域活動への主体的な参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が委員会等の活動や地域行事等に参加し、自己有用感が高まった生徒80%以上。 全生徒の技術や意欲が向上し、自己肯定感が高まった生徒80%以上。 	生徒
	<ul style="list-style-type: none"> 「行きたい学校づくり」推進事業（地域大学等との連続性） 探究活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 次世代教員養成システム・カリキュラム構築のために、探究活動や中高大連携事業を関連付けて活動する。また、メディアへの発信も積極的に行う。 「総合的な探究の時間」の深化と探究セミナーの充実と探究コンソーシアムで発信される情報による教員の意識向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 「行きたい学校づくり」推進事業参加者の内、教職という仕事の良さや苦労が分かったという生徒60%以上 中高大連携授業を通して、仕事としての教職に関心が増した、もしくは興味をもつようになった生徒70%以上 「行きたい学校づくり」に関連する事業のメディアへの情報 探究活動を通じて自分の課題解決力が高まったと答える生徒80%以上。地元の企業の役割や課題を把握し、探究活動につなげ、リアルアクションを実行した生徒100%。 	特別委員会 全学年 英語科

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	<ul style="list-style-type: none"> ・中高大連携事業の推進 ・教科学習や探究学習、研修等を通じてグローバルな視点と思考、英語4技能対応力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業と連携し2年生全生徒にインタビューシップ(≒インターンシップ)を取り入れる。 ・リアルアクションを通して生徒の情報収集力・情報分析力・課題発見力・構想力・課題解決力等の向上を図る。 ・各種大会や発表会への主体的な参加。 ・最先端の知識・技術を授業で体験し、探究のプロセスを体験することで課題を解決する力や、教員として求められる広範な知的好奇心の向上を図る。 ・中学生に対して授業をすることを通して、説明する力・コミュニケーション能力の育成を図る。 ・様々な研修等への主体的な参加。 ・本研修及び、事前研修、事後研修の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通して、SDGsや大学の研究に関して学び、地域や社会の問題に関心を高め、教職を含む進路希望決定や志望理由書の作成に生かすことができる。 ・実験・実習に参加した生徒の満足度80%以上。 ・授業に参加した中学生の満足度70%以上。 ・中学生に教えたことで実験・実習の成果が生かせたと答える生徒80%以上。 ・研修後の生徒アンケートの満足度90%以上。 ・British Hills 英語研修に参加して、英語4技能対応力が向上したと答える生徒80%以上。 ・英語や異文化理解の研修に参加して、グローバルな視点や思考を身につけるきっかけとなったと回答する生徒80%以上。 	
エ	<ul style="list-style-type: none"> ・スパイラルアッププログラムによる個々の能力・適性の伸長と、主体的・探究的な姿勢を育成し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。 ・教育改革、大学入学試験等への対応を深化・充実を図る。 ・教員の進路指導力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談、補講、自学自習支援、進路行事等を計画的に実施し、生徒の進路実現と実績向上を図る。 ・二次試験指導、面接、小論文指導の充実。 ・各教科の共通テスト研究や、大学推薦入試拡大への対応。 ・教員研修の実施。 ・各種研修会、研究会への主体的な参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト6教科8科目受験者を共通テスト受験者の80%以上、かつ国公立大学受験者を学年80%以上。 ・国公立大合格数150人以上。 ・難関大合格数（旧帝大・ブロック大等）20人以上。 ・県内国公立4大学への合格者が合計55名以上 ・静岡大学の合格者が30名以上 ・教員の教育改革、大学入学試験等への理解が深まり、進路指導に生かすことができる。 ・担任研修会や検討会等の研修機会に参加する教員100%。 ・希望者対象の各種研修会、研究会に10人以上参加する。 	進路3年部各教科特別委員会
オ	<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣の定着と読書量の増加及び読書の質の改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間を年3回実施。学年別にテーマやジャンル等設定、読書の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間等の活動を通して読書への関心を高め、年間2冊以上読む生徒が80%以上、年間3冊以上読む生徒が全体 	図書

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルを年2回実施。 ・活発な広報活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・60%以上になる。 ・ライブラリー(図書委員作成の生徒用広報誌)を年10回以上、新刊図書案内を月1回発行し、貸出数が増加する。 	
カ	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者・生活者としての自覚を促し、政治や選挙・消費に関する知識を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、総合的な探究の時間、特別活動等の指導により、政治や選挙、生活者としての関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治的教養が高まり、政治や選挙への関心が高まったと感じる生徒が80%以上。 ・主権者・生活者としての自覚が高まった生徒60%以上。 	<p>教務 生徒 各教科</p>
キ	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を充実させ、積極的な情報発信をするとともに、地域から信頼される学校としての体制作りをする。 ・地域との交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの迅速・正確な更新による学校の魅力化発信 ・学校行事、部活動結果等の情報集約・整理の仕組みを作る。 ・PRポスター・パンフレット、チラシの作成、説明会の充実、中学校等訪問等の発信事業の充実。 ・クラウドサービスを活用した、きめ細かい情報提供。 ・保護者会の実施。 ・電話、窓口対応を迅速、的確に行う。 ・部活動、事業、探究活動等による地域交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページを2回以上更新した職員60%以上 ・学校説明会に参加した中学生の満足度80%以上。 ・クラウドサービスによる情報提供に満足していると答える保護者90%以上。 ・各学年1回以上の保護者会を実施する。 ・電話、窓口対応に対するクレーム0件。 ・地域と連携した活動や事業計20件以上。 	<p>情報 管理職 特別委員会</p> <p>事務</p> <p>部活動 委員会</p>
ク	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理能力を高めるとともに地域の安全と防災に貢献する。 ・コンプライアンス遵守の意識の確実な向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理マニュアル」の早期の年度更新と周知徹底。 ・校内防災訓練年3回実施 ・生徒、保護者に対して「防災マニュアル」の内容を年1回以上周知する。 ・年度当初の防災備品点検 ・地域防災訓練の参加促進 ・毎月の研修及び資料の随時提供等による注意喚起と指導。 ・教職員の人権意識の高まりや法令順守を目的とした校内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生の際、教職員及び生徒が速やかに的確な減災対応をとることができ、負傷者を0名とする。 ・声を掛け合い、チーム力向上を意識する教職員100%。 ・不祥事の発生0件。 ・職員の交通事故0件。 ・コンプライアンス研修年間実施回数10回以上 	<p>総務 管理職</p>

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員、生徒を支援する校内研修等の充実と改善を研究、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力を客観的に捉え、効果的な魅力発信について校内研修で検討し、教職員が魅力発信の方法を認識し行う契機とする。 特別支援教育研修の実施 生徒による授業評価アンケートおよび教員相互の授業参観を年2回、教科別研修1回、全体研修1回を実施し、授業改善を図る。 教員の相互理解を深めチーム力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の満足度 80%以上 特別支援教育に関する意識や知識が高まった教員 80%。 授業評価アンケートの結果・研修会を授業改善に生かすことができた教員 80%以上。 教員相互の授業参観を年2回以上行った教員 80%以上。 	研修 相談室
	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革に向けて業務改善や円滑化に係る具体的措置の検討と実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌学年で業務見直しによる削減又は改善等を検討する。 完全退勤時刻を設定し、時間を意識した働き方をする。 校務省略化に向け、各種データベースの利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の削減又は改善について検討した分掌学年 100%。 完全退勤時刻（20:00）と完全退勤時刻遵守日（水・金曜日）を意識して働いた教員 80%以上。 時間外在校等時間が月 80 時間以上の教員が 1 延べ 60 人以下になる。 教育の質を担保しながら業務改善を図り、時間外の在校時間を「月 45 時間以下」、「年間 360 時間以下」の教職員の割合を 80%以上にする。 	委員会 管理職
ケ	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な施設・設備および生徒の教育環境整備の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室等、生徒の学習環境の定期検査。 ゴミの分別を徹底し、減量を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の照度、CO₂、騒音の検査を年に2回実施。 年間のゴミの排出量 900kg 以下。 	保健
		<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の維持補修。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設等の不具合による事故 0 件。 	事務